

ような子どもの養子縁組を促進しないのかという疑問が筆者には湧き起こってくる。家族を知らない養護児童の養子縁組が日本では非常に少なく、国際的に見ても異常ではないだろうか。里親委託も、国際的に異常に少ないことは、里親には親子関係のない子どもや遺棄された子どもを預け、育ててもらおう制度として制限された少数の子どものためにこの制度が使われてきたからではないだろうか。

フランスでも、かつて里親委託は孤児や捨て子を養育する制度として発展してきた。しかし、1960年代になると、それらの子どもが大幅に減少したことから、里親制度のあり方を抜本的に見直す必要を感じた者たちによって議論されてきた。そのため、1977年の大改正では、里親の職業化と里親の概念の転換が図られた。すなわち、里親制度は遺棄された子どもを育てる制度ではなく、子どもの養育に困難な状況にある家族を支援し、その育成を補足的に支えることで、親子関係を修復させようとする制度へと転換した。それによって、里親制度に新しい使命が付加され活性化されている。また里親委託において支援する対象を子どもとその親へと向けられるようになった。

日本でも、虐待を受けた子どもの保護が増加している。それで専門里親は、被虐待児を受け入れることを求められている。しかし、そこには大きな親子の問題が横たわっている。それは、専門里親の力量だけでは解決することの難しい問題ではないだろうか。その支援をフランスでは、専門的知識と経験を積んだ職員と子どもとその親と里親に寄り添うソーシャルワーカーを確保してチームで総合的に里親委託と支援に取り組むことを必要としているのを学ぶことができた。

②結論

この文献研究は、フランスの里親委託機関を研究分担者と協力研究者が共に現地の里親委託機関及び関係機関を訪問し調査することを前提にあらかじめ文献でわかることを明らかにする目的で行った。したがって、入手で

きた文献だけでは、十分に理解できないこともあり、ここで結論を出すことは難しい。

そのため、引き続いて行う予定の現地訪問に折にさらに聴きたい事と見ておきたい事を気がつくままに挙げることにした。

タイプの異なる里親委託の設備と業務体制を確認する。②委託される子どもがケアを必要とする理由や状態を聞く。③措置機関のソーシャルワーカーと里親 ④委託機関との関係と連携の仕方を聞く。⑤措置機関と実親との子ども計画の作成についてより詳しく聴く。⑥チームによる支援を具体例について聴く。⑦措置解除を決定するときの課題について聴く。⑧養育の難しい子どもを受け入れる里親をどんな条件で採用しているのかを聴く、⑨委託機関の職員研修について聴く。⑩里親の配偶者と実子をどう支援しているのかを聴く。⑪親族里親を制度的に認めない理由を聴く。⑫治療とケアの違いについて聴く、このようなことを分担研究者と共にさらに検討して、訪問調査に臨みたいと考える。

【注記】

1. 菊池緑「[海外見聞録：フランスの区民の里親委託機関]季刊児童養護41巻2号 p.30-38, 2010
2. 櫻井奈津子「被虐待児受託里親の支援に関する調査研究—委託児童の状態、問題について」新しい家族・第46号 p.27-47 2005年
3. 菊池緑「フランスの養子縁組斡旋制度とその実態」湯沢雍彦編著『要保護児童養子縁組の国際比較』p.129-170. 日本加除出版株式会社、2007
4. 教育指導員には、年少児の教育指導員と特別教育指導員という2種類の資格があり、里親委託機関や児童社会援助機関には後者の資格者が多い。アメデ・テヴネによれば、特別教育指導員は「不適応児の観察と教育の任務を負う人間関係の専門家で不適応の児童や青年に自立の仕方を教える」と述べていStudyrama.comのサイトでは、「特別教育指導員とは、運動機能障害、精神的又は視聴覚障害、自閉症、行動障害や適応困難のある子どもと青年の社会的同化を支援するエキスパート」と定義。この資格は認可された養成機関で15か月の実務研修を受けて取得できる。また、大学卒業資格を持ち、社会福祉分野で特別教育分野で実務を3年以上経験した者も取得できる。

5. Anne Oui, *Guide de l'Assistant Familial*. P.130
DUNOD, 2010
6. Denize Chavey et al., *Le centre d'accueil Familial Spécialisé*. Vie sociale et traitements, 2004/2 no.82. érès.
7. Christian Roche, *L'Accueil Familial Thérapeutique*. Vie sociale et traitements, 2002/1 no.73.érès.
8. <http://annuaire.action-sociale.org/?cat>
9. Jean-Claude Cébula et coll. *Guide de l'Accueil Familial*. p. 428-429, DUNOD,2000
10. DREES, *Série Statistiques, Document de Travail: Les bénéficiaires de l'aide sociale départementale en 2009* n ° 156-avri 2011. P.94-95
11. Département de Paris, *le Guide de l'Aide Sociale à l'Enfance*. Paris info 2009
12. Michel Soule, *La rencontre des pédopsychiatres avec l'acceuil familial*. Sous la Direction de Hana Rottman et Pascal Richard, *Se construire quand même*. P.59-72, Puf. 2009
13. Sylvie David. et al., *Premières années d'une pratique innovante : Création à l'ASM 13 du Centre Familial d'Action Thérapeutique par le Dr. Myriam David*. Sous la Direction de Hana Rottman et Pascal Richard, *Se construire quand même*.p.64-72, Puf. 2009
14. 菊池緑「里親委託の不調を予防するフランスの取り組み」『里親と子ども』Vol.6 2011.10, 明石書店
15. Ministère de l'Emploi et de la Solidarité, sous la direction de Myriam David, *Enfant, parent, famille d'acceuil. Un dispositif de soins : L'accueil familial permanent*. Edition érès.

事例研究：被虐待児等の子どもを養育する 里親の育児困難の現状とその支援 －東京・沖縄・静岡の33名の里親の面接調査から

深谷昌志*・深谷和子**・青葉絃宇***

要旨：

現状改善のための戦略を立てようとしたら、いずれの場合においても、まず現状の正確な把握が必要である。それがなければ、作られたものが有効に機能することはまず期待できない。まして養育家庭の支援の方策を策定しようとする際には、対象への綿密で十分な調査研究が必要であろう。なぜなら、トラウマティックな体験の癒えないうちに、里家という新しい環境への適応を強いられる里子の側には、想像以上に大きな困惑と混乱があるに違いないし、そうした過去を背負った里子を養育する里親たちの日々も、大きな困難の日々であると想像できるからである。

われわれのグループは、平成24年度に全国の養育家庭の里親対象に、里子養育の現状とその困難な状況を明らかにし、支援の方策を探るためのアンケート調査を行う予定である。しかしそれに先立ち平成23年度に、東京、沖縄、静岡在住の33名の里親対象に個人面接調査を実施した。アンケート方式では把握が難しいような里親の日々の努力やその心情に接近することを企図したからである。また面接に先立って「事前アンケート」を実施し、面接とアンケートの2つの資料を総合して、個別の事例記録を作成した。次にそれぞれの事例の特徴から、いくつかの意味ある事例群を拾い出し、読み取りを行うことにした。

このように、通常の事例研究とはやや異なった手法を用いて里親の養育の現状に接近し、そこから里親養育支援の課題と方策を探ろうとした。

A. 目的：

被虐待児等の養育困難な子どもを受託している里親たちの今後の支援のあり方を探るために、その心理的世界を含む養育の現状と、里親たちが遭遇している育児困難の現状、抱えている問題、求められているサポート等についての資料を収集することが目的である。なお、今回の面接調査は、全国の里親に対するアンケート調査(平成24年度実施予定)の調査票作成のための基礎資料を得ることも兼ねている。里子の養育には、多少とも地域性の反映が予想されるので、平成23年度には3地点(東京、沖縄、静岡)で里親面接調査を行うこととした。この面接調査は平成24年度、25年度も継続して行う予定である。

B. 方法：

1) 面接調査地点と実施日時、サンプル数：

初年度の面接調査は3地点で行われ、それぞれの里親会の協力の下に被面接者が選定された。被面接者は合計33名で、事前のアンケート調査(資料1)の内容をふまえながら、各ケースについて1時間～1時間半の聞き取り調査が行われた。時間を長くとも1時間半以内にとどめたの

*東京成徳大学 **東京学芸大学(名) ***東京里親会

は、幼稚園や学校に通う里子の世話をしている里母(時に里父)の時間的制約を勘案してのことであった。面接時間の短縮には、「事前アンケート」(資料1)とそれから作成されたブリーフ・レポートが役立った。

<調査地点と日程>

①東京調査：(対象里親21名)

平成23年9月22日から12月8日迄 於：新宿区コズミックセンター

②那覇調査：(対象里親6名)

平成24年1月27日から29日迄 於：那覇市総合福祉センター

③静岡調査：(対象里親6名)

平成24年2月7日から2月9日迄 於：伊東市児童・身体障害者福祉センター
「はばたき」及び沼津児童相談所

2)面接の方法

(1)事前アンケートの実施

面接に先立って、事前アンケート(記名)が3地点の里親会を通して被面接者に配布され、郵送で回収された。

事前アンケートの構成は以下の通りである。(調査票は資料1参照)

なお、複数の里子を養育している場合は、調査票サンプルに記載したように、Aちゃん(「小学生」または「養育期間が一番長い里子」)について記入を求めた。

- ①里母の名前、里父の名前と年齢(30代、40代、50代、60代以上)
- ②家族構成：里子、実子、自立した里子、自立した実子、それぞれの年齢など
- ③本人の属性：本人が施設や里親に預けられた理由、家族、虐待の有無
里親が感じる虐待の影(自由記述)
- ④里子養育の動機、受託に当たっての家族や親族の受け入れや反対(自由記述)
- ⑤当初と現在の発育の状況、トラブル：「低身長、風邪をひきやすい」など12項目、5段階評価
- ⑥性格や行動上のトラブル：「感情の起伏が激しい、わがまま、人に心を閉ざす」など20項目、5段階評価
- ⑦学習状況：成績段階、得意な教科、不得意な教科、学校が好きか、友人関係、宿題の習慣形成など
- ⑧里親と本人の関係：気持ちが通じ合うか(4段階評定)、遠慮せず叱るか(4段階評定)
- ⑨当初3か月の大変さ、または現在大変なこと(自由記述)
- ⑩里親の現在(将来)の心配、気にしていること(自由記述)
- ⑪悩みの相談相手、見相等でカウンセリング(里親、里子)を受けたか
- ⑫受託時に、見相から子どものヒストリーの説明がどの程度あったか
- ⑬委託の返上等を考えたことの有無
- ⑭その他

(2)ブリーフレポートの作成

事前アンケート(資料1)の結果から、各ケースの問題点や明らかにしたい事項等をピックアップして、面接の前に、ケースについてのブリーフ・レポートを作成した。

(3)個人面接の実施

ブリーフ・レポートをもとに個人面接を行った。なお面接は、以下の方式で行われた。

- ①聞き取る質問は構造化せず、録音もしなかった。表現の抑制を防ぐため、心理臨床面接では、通常的方式である。
- ②初めに、面接調査の目的と来年度以降の計画などについて説明し、面接への協力を求めた。
- ③こちらが尋ねることへの回答ではなく、「里親として日々感じていることを自由に話してほしい。その中で聞きたいことがあれば、質問させていただく」と説明した。
しかし複数の里子を養育している里親が多いので、アンケートで指定したAについてではなく、他の里子や複数の里子など、思い入れのある里子について語られることも、しばしばだった。
- ④幼稚園や学校に通う里子が多いので、里親のスケジュールを尊重して、面接は通常1時間、長くても1時間半以内にとどめた。

3)結果の整理

(1)事後調査

面接後に再度、簡単なアンケート(補足アンケート)調査を実施し、郵送で回収した(資料2)が、これらは主に2年目のアンケート調査の資料を得るためであった。記名ではあったが、事例記録の作成には使用しなかった。

(2)事例原稿の作成

本研究は33人の里親の語ったナラティブ(里子養育をめぐるヒストリー)を資料にして事例研究を行ったものである。こうした事例は個人情報であり、最近の心理臨床では、資料の公開について大きな配慮が払われる。学会のような専門家集団の集まる場でも、発表に使用される個人資料は匿名で、そして内容にも手を加えた(修正された)ものを使用し、かつ発表後は回収する。しかしヒストリーに手を加えれば加えるほど匿名性は高まるが、手が加えられることで、大なり小なり本質が損なわれ、小説に近くなることも出てくる。こうした事例を使用する際には「ケースの本質を変えない程度に修正を加えてある」と付記されるのが通常だが、例えば2人兄弟を3人と修正しても、3人の子どもをもつ家族と2人の子どもをもつ家族のダイナミクスには違いが出てくる場合もある。

(3)事例原稿の里親による確認作業

そこで本研究では、里親からの聞き取り(ナラティブ)とアンケート調査の資料を総合して作成された事例原稿を里親に送付して、里親本人に加筆、修正を求め、できあがった原稿を本研究報告書へ収録していいかどうか、改めて収録の可否を問うことにした(資料3)。作成された原稿の中で、「収録を承諾された記録」は、33ケース中28ケース、加筆修正が原稿締め切りに間に合わなかったケースが1ケースあった。

多くの里親からこの作業に積極的な協力が得られ、むしろ「喜びも苦労も喜びも、一つの記録に残して伝え合っていきたい(事例23)」のような声も多かった。また、収録を辞退したい(収録否)と申し出のあったケースには、資料4に掲げたように、例えば、①こうした聞き取りから作成された文章の表現力の限界や、また②ネガティブな側面を含む事例を公開した時に起きる里親希望者への影響を懸念して、また、子どもに収録を相談したら、必ずしも心からの同意が得られず、子どもの意見を尊重して辞退したい、など、いずれも示唆に富む内容が記載されており、参考資料として収録した。

(4)表題をつける

それぞれの事例について、ケースを特徴づける語句や印象的な語句等を事例原稿の文章から拾い出して、メインタイトル・サブタイトルとした。この表題部分については、里親の了解は得ていない。(資料5)

(5)サンプルナンバーを振り直す

原則としてサンプルナンバーはランダムに振った。ケースには多少とも地域性がみられ、内容を読み取る際にこの属性が機能するので、ケース番号に地域コードを振りたかった。しかし里親間では日頃から交流が密なので、匿名性が損なわれることを懸念して、地域コードを加えずに番号のみとした。(D. 考察の章の表9参照)

C. 結果 I : サンプルの属性

方法の章で述べたように、本研究では、事例の記録にアンケート形式での資料(資料1)を総合した個別事例を作成し、これを用いて考察する方法を用いた。したがって事例研究としてはやや異例だが、まず33ケースのアンケートの資料から、I)で、おおまかにサンプルの属性と生育状況を量的に把握し、次にII)に(収録を承諾された)事例を掲げ、D. 考察に進むことにした。

1)被面接者(里親)の属性

(1)被面接者は33名で、表1に里親の年齢を示した。50代以上が7割前後を占める。これは、平成20年2月の「児童養護施設入所児童等調査」(厚生労働省雇用均等・児童家庭局)の数字とほぼ同様*である。(※同調査によれば、50代以上の里父は62.6%、里母は58.5%)また表2は家族の人数で、3人もしくは4人の小人数の家族が多い。7人以上はファミリーホーム等である。里母のみの養育家庭も3家族あった。(里父が死亡、遠居など)

表1 里親の年齢構成 (%) N=33

年齢	30代	40代	50代	60代～
里父	9.1	21.0	39.0	30.9
里母	6.1	9.1	48.5	36.3

表2 里親の(同居)家族人数 (%) N=33

人数	2人	3人	4人	5人	6人	7人～
	9.1	36.4	30.3	9.1	0.0	15.1

(注:家族人数には里子を含む)

(2)里子だけの養育か、実子と里子の養育かを表3に示した。里子1人だけを養育する家族は17、複数の里子を養育する家族が7、里子と実子を養育する家族が6家族であった。

表3 養育状況(里子と実子との関係) (%) N=33

タイプ	里子が一人だけ	複数の里子だけ	里子と実子が同居	里子はいない(*)
	54.7	21.2	18.0	6.1

(*)成人前に処置解除・措置変更

(3) 表4で見るように、子育て経験のある里親(実子の多くは自立)は17人、経験のない場合が11人、(無記入が5人)であった。

表4 里親の子育て経験 (%) N=33

経験	あり	なし	無記入
	51.5	33.3	15.2

(4) 対象として取り上げた子どもについての学校段階を表5に示した。これは、全里子についてではなく、調査票サンプルに示したように、養育中の里子の中から1人(小学生かそれに近い里子、またはもっとも長く養育した印象的な里子)を選んで、回答してもらったので、表が示すように、小中学生が6割(19人)と半数以上を占めている。

表5 対象とした子どもの年齢 (%) N=33

段階	乳幼児(未就園)	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等学校	社会人	その他
	12.1	6.1	36.4	24.2	9.1	9.1	3.0

(注)男子=39.4%、女子=60.6%

(5) 対象児が虐待の過去をもっているかどうかは、委託時に児相から詳しい経緯を説明されたケース、あとから里子の口から虐待の事実が語られたケース、虐待の事実を児相が説明しなかったケース等が混在している。はっきりした同定は難しいが、サンプルの多くは、早期の施設養育からもたらされる、いわゆる2次的虐待も含めれば、ふつうと違う環境で成長した子どもとみなしてよいと思われる。それを、表6、表7に示した特徴のある生育状況が語っている。

2)対象となった里子の生育状況

すでに<B. 方法>の章で述べたように、面接に先立っての「事前アンケート」調査には、5)6)7)に、対象とした里子の健康を含めた生育状況や、学習・学校状況をみる項目が含まれていた。33事例ではあるが、ここで、ざっとその概況を見てみる。

なお、この部分は、補足調査(資料2)同様に、次年度(平成24年度)に実施予定の「里親全国調査」の項目作成を視野に入れて作成されたが、ここでは、本サンプルの成長と発達の姿を概観するために使用した。

(1)里子の生育と健康状態(表6)

生育と健康問題で、もっとも出現頻度が高いのは、①「身長が低い」(とても・わりとを合わせて)は43.7%で、②「偏食」も37.6%と、幼少時の栄養摂取に偏りがあったことが推定される。その反動か現在の③「過食」も28.1%みられる。

表6 里子の成育と健康状態 (%) N=33

	とても	わりと	(小計)	少し	あまり	違う
①身長が低い	28.1	15.6	43.7	3.1	3.1	50.1
②偏食が多い	18.8	18.8	37.6	12.5	18.8	31.1
③食べ過ぎる	12.5	15.6	28.1	9.4	6.3	56.2
④やせ過ぎている	9.4	6.3	15.7	12.5	15.6	56.2
⑤夜尿がある	7.1	0.0	7.1	3.6	0.0	89.3
⑥よく風邪をひく	6.5	3.2	9.7	6.5	29.0	54.8
⑦小食(食が細い)	6.3	3.1	9.4	3.1	25.0	62.5
⑧便秘がち	3.6	14.3	17.9	7.1	7.1	67.9
⑨運動神経が鈍い	3.1	12.5	15.6	9.4	15.6	59.4
⑩よくお腹をこわす	3.1	6.3	9.4	6.3	21.9	62.4
⑪太り過ぎている	0.0	13.3	13.3	3.3	0.0	83.4
⑫睡眠が浅い	0.0	0.0	0.0	7.1	21.4	71.5

(2) 里子の性格(表7)

人(子ども)の人格の不健康、半健康状態を記述するには、いくつかの側面が考えられる。表7を構成する19項目は、心理面・行動面での気がかりな傾向を示す項目で、おおまかに次の5領域から構成した。

- A. 情緒不安定傾向
- B. 社会性の欠如(自己中心)
- C. 攻撃性
- D. 防衛的(対人関係で警戒心が強い)
- E. その他(幸福感や活力の低下等)

表7の上位項目をみていくと、上位でA領域<情緒不安定>に属するのは、①「感情の起伏が激しい」(とても・わりとを合わせて) 55.2%、⑪「すぐ泣く」30.0%、⑫「パニックを起こす」25.9% ⑨「劣等感が強い」24.0%がある。またB領域<社会的不適応>には、②「素直でない」66.7%、③「わがまま」58.7%、⑤「よく嘘をつく」44.0%、⑥「よく約束を破る」42.3%、⑩「反省心がない」33.3%がある。C領域の数値は、⑦「すぐに暴力を振るう」17.9%、⑧「言葉が乱暴」22.2%と低く、また意外なことに、D「対人関係の不調」を意味する項目の出現率も低い。⑭「人に心を閉ざす」26.8%、⑬「他人に警戒心が強い」25.7%、他の項目の数値もそれほどでない。またEその他「幸福感や活性の低下」を思わせる項目の数値も低く、⑯「気が小さい」24.1%、⑮「何となく無気力」13.8%、⑱「性格が暗い」10.7%とわずかである。

以上を総合すると、対象となった子どもたちは、情緒不安定な傾向があり、社会的適応性や主観的傾向の面でもやや気がかりな傾向を示すが、今現在は、学校と里親の提供する環境が安定したものであるため、社会的に庇護された状況にあり、それほど大きな問題には発展せずにいるのではないかと考えられる。そうした庇護が無くなった時、むしろ18歳、20歳以後が懸念される結果といえそうである。

表7 里子の性格

(%) N=33

	とても	わりと	(小計)	少し	あまり	違う
①感情の起伏が激しい	38.0	17.2	55.2	0.0	13.8	31.0
②素直でない	25.9	40.8	66.7	3.7	3.7	25.9
③甘えたがる	25.0	7.1	32.1	10.7	25.0	32.2
③わがまま	24.1	34.6	58.7	6.9	10.3	24.1
⑤よく嘘をつく	24.0	20.0	44.0	8.0	12.0	36.0
⑥よく約束を破る	23.1	19.2	42.3	3.8	15.4	38.5
⑦落ち着きがない	17.9	21.4	39.3	17.9	14.3	28.5
⑧言葉が乱暴	14.8	7.4	22.2	14.8	22.2	40.8
⑨劣等感が強い	13.8	10.2	24.0	20.7	34.6	20.7
⑩反省心がない	12.5	20.8	33.3	4.2	33.3	29.2
⑪すぐに泣く	10.0	20.0	30.0	16.7	20.0	33.3
⑫パニックを起こす	9.7	16.2	25.9	9.7	38.6	25.8
⑬他人に警戒心が強い	9.6	16.1	25.7	16.1	32.3	25.9
⑭人に心を閉ざす	7.4	19.4	26.8	18.5	22.2	33.3
⑮何となく無気力	6.9	6.9	13.8	17.2	24.1	44.9
⑯気が小さい	3.4	20.7	24.1	24.3	20.7	30.9
⑰すぐに暴力を振るう	3.6	14.3	17.9	14.3	17.9	50.1
⑱性格が暗い	3.6	7.1	10.7	3.6	25.0	60.7
⑲人見知りかはげしい	0.0	3.6	3.6	32.1	14.3	50.0

(3) 里子と学校や学業、友人との関係

1) 表8に示したように、学校はむしろ里子に好かれている。①学校がとても好き・やや好きな子は、あわせて6割に達する。しかし②成績はおしなべて悪く(中の下33.5%、後ろの方33.5%)、③勉強は嫌い(とても嫌い33.3%、やや嫌い33.3%)である。⑤宿題を言われなくともする者は40.0%。しかし、④友だち関係は比較的良好で(とてもよい14.3%、わりとよい42.8%)、⑥好きな教科は文系、技術系で、⑦嫌いな教科は1位が算数48.4%と、基礎学習の積み重ねができていないことをうかがわせる。

表8 里子と学校との関係

(%) N=33

①学校へ行くのが	とても嫌い	やや嫌い	ふつう	やや好き	とても好き
	13.6	4.5	22.7	18.2	41.0
②勉強の成績	とてもよい	中の上	中位	中の下	後ろの方
	4.4	14.3	14.3	33.5	33.5
③勉強が好きか	とても嫌い	やや嫌い	ふつう	やや好き	とても好き
	33.3	33.3	23.9	9.5	0.0
④友だち関係	とてもよい	わりとよい	ふつう	あまりよくない	
	14.3	42.8	28.6	14.3	
⑤宿題をするか	なかなかしない	いわれるとする	いわれなくとも	自分からする	
	25.0	35.0	20.0	20.0	
⑥好きな教科	1位・音楽	2位・体育	3位・国語	4位・社会	
	16.1	12.9	12.9	9.7	
⑦嫌いな教科	1位・算数	2位・国語	3位・理科	4位・社会	
	48.4	19.4	16.2	16.2	

C. 結果Ⅱ：事例資料

表9 事例の分類

I) 困難を抱える子ども	
1) ことさら難しい問題をもつ子	
	3. 重症心身障害児を預かって - 生後4か月の乳児と面会して「何かの縁かと思う」と言った里父 4. 「発達障害では」と言われた子との苦闘の日々 - 共働きの中で里子を育てる里母 5. 知的障害児と知って受託したが予想外に難しい展開 - 自立が難かしなければ養子にすることも考える里親 6. 学校や地域から「どうしてこんな行動をするの?」と質問攻め - 性的虐待を受けた子を預かって 33. (収録否) 学級崩壊の核になった子 - もう少し学校が弾力的な対応をしてくれたら
2) 心に闇のある子	
	7. 今日失敗したことが明日につながらない - 叱られると心を閉じて何を言ってもはねつける子との日々 8. 「僕なんか死んでしまえばいいんだ」という子と暮らす - 子育てについて話し合い、助言してもらえる場がほしい 27. 里父の熱い心に応えてくれる日を待ちながら - 交流期間中にいつも泣き続けていた2歳児
3) 家庭養育か、施設養育か	
	20. 里母が体調を崩して措置変更 - とても理解できない里子の行動に家族も揺れる 18. (収録否) この子にとって適切な成長環境は、家庭か施設か - 子どもに伝えたいことを養育家庭の中でと里親になったが 19. 家庭より施設のほうが安定する子? - なおも残る愛着形成上の問題

II) 心理的・発達の問題	
	1) きょうだい間葛藤
	9. きょうだいの里子間に生まれた愛憎の葛藤 - 血のつながった兄弟だから兄はすぐ弟を受けいれると安易に考えていたが
	10. (収録調整中) きょうだいを預かる特別なむずかしさ - 3組のきょうだい里子を育てた日々の中で
	11. 里子間に起きる嫉妬に配慮しながら - ファミリーホームの中で
	2) 不登校問題
	12. 「助けて下さい」と玄関で叫んだ子 - 今は不登校から抜け出して高校進学先も決まる
	13. 「自分」という存在を人に知ってほしかった子 - 現在は(明るい)不登校
	14. (収録否) 不登校と戦った日々 - 実親でないからできた冷静な対応
III) ゆりかごととしての家族と里母	
	15. 実家と違う里家のしつけに適応できなかった兄妹 - 妹が父の許に戻って里家での役割を失った兄の家出
	16. うちとけない里子に家族からの反発がはじめて - 実母への思いが強すぎた子
	17. 子どもと波長が合わない里母の中にあつた未解決の課題 - それに気づいてから子育てが少し楽になる
	1. 早く「本物の親」になろうとした里母の努力と迷い - 3人の里子の人格形成に落とす虐待の影もさまざま
IV) いくつもの波を乗り越える	
	21. 幼稚園ではしっかり者だが、鬼と暗闇を怖がる子 - 種々の「試し行動」を乗り越えて
	22. 小3迄の荒れた行動も落ち着いて「25歳迄この家に居る」と言う15歳 - 塾と学童クラブに通わせながらの共働き家庭での子育て
	23. 無表情な子が里親の翼の下で自分を取り戻す - 苦勞も喜びも一つの記録に残して伝え合っていきたい
V) 里子の自立と18歳問題	
	24. 知的障害児だった里子が自立して - 就職後も休みのたびに里親宅に泊まりに帰ってくる子
	25. (収録否) 家事分担に責任をもたせると「この家に居ていいんだ!」と思うようになる - 里子の将来を見据えてしっかり育てている里母
	26. 自立が危ぶまれる子、すでに自立した子、措置変更した子 - 5人の里子を育てる中で
	29. 勉強より人生で食べていく術を習得させたいと言う里父 - 20人の里子を預かった日々の中から
VI) 措置変更とジェンダー問題	
	2. 手に負えない盗癖と3年半苦闘した末に委託解除された里親の心情 - 様々な行動改善プログラムの試みと神への「祈り」もむなしく
VII) 里父の思い	
	31. 「天使が来た」と言った里父 - 虐待それとも事故だったかは不明の短期の里子に
	32. (収録否) 「阿弥陀のように、慈悲深く見てくれ」と言う里父 - 5人の里子を預かって
	28. 里子のために主夫をする里父の日々 - 18歳過ぎた後のことを本人は心配していないようだが
	30. 次々と自立して行く里子たち - 何かの縁で結ばれた「運命共同体」だが、もっと福祉施策の充実をと里父

注) 「収録否」は資料4にその一部を掲げたが、報告書への収録を辞退した5ケース。「収録調整中」は、多忙で事例原稿のチェックが締め切りに間に合わなかった1ケースである。

I) 困難をかかえる子ども

1) ことさら難しい問題をもつ子

3. 重症心身障害児を預かって

一生後4か月の乳児に面会して「何かの縁だと思う」と言った里父

1) 概要：

これ迄6人の里子を養育(養育中)した。

A (小1から高校卒業迄養育。盗癖(家の中だけ)あり、今は会社員) *被虐待児

A2(施設から来た子で、愛着障害か。年長組の時4か月養育) *被虐待児か

A3(年長組から小1迄。施設から来た子で、多動症(ママ)のため現在は治療施設で治療中)

A4(中学卒業後、理容店で修業中)

A5(生後4か月で病院より里家に。現在11か月で水無脳症)

A6(施設から来た子で、現在幼稚園年中組)

*里母がAに虐待の影を感じたのは、自宅の金をもちだしたとき「叩くのだったら、お尻ではなく、頭にしてくれ」と言われた時。実父の友人にお尻をいたずらされた(ママ)記憶が蘇ったらしい。

2) 里親の家族構成：

里父は60代で専門里親、現在はそれまでに取った専門的資格を生かして病院勤務。里母は60代で、ファミリーホームの運営を考えている。これ迄に短期も含めて6人の里子を育てた。現在はA5とA6とで4人家族。実子(35歳)はアメリカでドクターをしている。これ迄(6人を預かる以前に)東京都の児童施設から「週末(等)里親」で来ていた3人の子どもを預かった。

3) 受け入れの動機：

実子1人に恵まれた後、37歳で以後の出産が望めないことが分かる。その頃〇〇児童学園から虚弱児を預かってほしいと相談があり、里母は美容院を経営しながら育児にあたることにした。

4) 事例：

<事例1> A5：女兒 生後4か月から現在まで(11か月)、水無脳症

①生後4ヶ月からあずかり、現在11か月児。親が育てられなかったのが、生後すぐ入院。面会した時、細い手足で猫のような鳴き声をしていた。断ろうかと思ったら、里父が育ててみようと言う。里父の手を握ったとのことで、「縁かと思う」と言った。アメリカの娘に相談したら、大変な子、水無脳症はめったにない病気と言われたが、アメリカの被虐待児にはもっと悲惨な子もいると言われた。

②抱かないと頭を維持できないので、抱くか、寝かせるかである。短い命と言われており、少しでも家庭の温かみを感じさせてやりたい。

初めは何を要求しているかわからなかったが、今は頭を(里母の体に)寄せてきたり、マンマン、マン、マンのような音を出したり、蹴とばしたりで怒っていることを伝えてくる。笑う表情をすることもある。可愛い。一緒に寝る。気持ちが通じる感じがある。

③相談相手は、◎子育て支援課、友だち、児相、里親会、病院など。

*◎一番の相談相手、以下同じ

<事例2>A：男子(小1から高校卒業まで養育)

雨の日には人格が変わったようになる子だった

1) 概要：Aは初めて預かった子。養育期間は6歳から12年間で、現在18歳。被虐待児。施設等に入所したことはなく、父子家庭から直接来た子。アル中の父親からの虐待があった。マイケル・ジャクソンがしたように、市営住宅の5階から外にぶら下げられたこともあると、Aはしばらくして打ち明けた。

2)経過：

①当初：1年生で家に来た当時は、言葉は知らない、物語も読んだことがなくて、1年生としての常識が全く欠けていた。母親と言うものを知らないので、里母をこわがっていた。

②発育と健康：

来た当初は とても；よく風邪をひく、おなかを壊す、低身長、やせ過ぎ、過食、便秘がち、夜尿 があったが、その後6年間は病院に行くことがなく健康に育った。

③性格：

とても；すぐ泣く、素直でない、感情の起伏が激しい、パニックを起こす、嘘をつく、わりと；落ち着きがない、性格が暗い、言葉が乱暴、人に心を閉ざす、反省心がない、盗みがある 等

④学習状況：

成績は上、得意なのは社会(学年トップ)、苦手は算数、勉強は普通に好き、学校はとても好き、宿題は言われてする、友だち関係はふつう。

⑤困ったこと：

預かって1、2か月した頃から、ランドセルを背負ってプチ家出？を月に1、2回。「考えたいことがある」と言って、裸で外へ出たこともある。家の中のお金を持ち出す。お金の持ち出しに関係なく、口を利かなくなってしまう。

子ども時代の金の持ち出しはゲーム機などに使って、計100万円位になるかもしれない。ワインの盗み酒もしていた。

⑥叱られると固まる子：

叱ると固まる子だった。例えば3者面談のあることを伝えなかった時に、聞くと「忘れていた」と言い、2階へ上がって布団をかぶって寝てしまう。とくに雨の日は、顔つきがすっかり変わってしまうので、2重人格ではないかと疑った。蒼い顔をして、目がつり上がって、表情が変わる。反抗的になり、「ウルセー」「テメエハナ、今夜コソ決着ヲツケテヤル」などと口走ることも。食事も食べないで学校へ行き、帰ってくると普通の状態に戻っていた。

学校は休まず行き、高校3年間は自分の弁当も詰めて登校した。高3の時には、運送業、宅配業になると言っていたが、腰痛があったので、反対した。

⑦公務員試験は最終面接で落ちたが、現在の会社に正社員で就職。お金の持ち出しは、高3の時をしっかり話して聞かせたら、ぴたりと止まった。元の姓(〇〇家)を再興してはと話したら、

そうすると言う。勤めて4、5か月で実父が死亡。新しいきょうだいがいたこともわかる。現在は車がほしいと言い、貯金している。就職した現在も、勤務のない日など、「ただいま」と帰って来る。ケータイに何となく、近況報告を入れてくることもある。

<事例3>A4：男子

父が失業し、半年間の約束であずかった子。中卒後理容店に住み込みで働いて、一旦は戻るが、また働いている。

<事例4>A3：本人にとって、里親養育が望ましいとの施設側の判断で里親になったが、多動症とのことで養育を返上し、児相が治療施設に入所させた。

長期に預かったA3とA4が自立して、子どものいない生活は考えられず、娘のいるアメリカに行こうかと準備もしていたが、児相から電話があり、A5と面会した。

<事例5>A2：(年長組から小1迄、4ヵ月間)

数ヵ月間のペアリング後、1週間の試行期間の時はとても明るい子であった。しかし、預かった直後から性格が正反対となり、児相に相談。やがて引き取りに来て、そのまま他の施設に移った。(以上)

4. 「発達障害では」と言われた子との苦闘の日々

ー共働きで里子を育てる里母

1)概要：

7歳女兒A 小学1年生(4歳から2年半養育)

乳児院、児童養護施設から、1番目の里親宅、再度時児童養護施設を経由して、現在の里親宅で生活している。Aの実母は、Aを妊娠中内縁の夫が失踪し、生まれてくるAを育てることができないと判断し、病院からそのまま乳児院へ。里母が働いているので、当初は保育園(年中、年長)へ預け、小学校入学後は学童保育へ預けている。

2)里親の家族構成：里母は40代で勤務者、里父も40代で勤務者、祖母と4人家族

3)里親登録の動機：子どもがいなかった。子どもが好きで育ててみたかった。里母は障害者相談支援事業所で働いているが、そこで虐待児童とその母親担当することがあった。児相と一緒に支援することが続き、その時に里親制度を知った。児相の職員からも、里親は不足しており、やってみないかと声をかけられて。

はじめ、好んで苦勞する必要はないと、里母の実父母の身内からの反対があった。しかし社会的養護の問題に燃えていたので、養育をする意志を貫いた。

4)事例：A(7歳女兒)

①初めから難しい子だった

警戒心が強くて、うちとけるのに1、2ヵ月かかった。保育園は途中から嫌だと言い出した。園からは「可愛げのない子」と言われた。注意してもプイと言う感じで、「里母が仕事をしているから、愛情が不足しているのでは」と園側から言われた。

「自分は、母ちゃんのおなかから生まれてきたんじゃないよね」「母ちゃんと父ちゃんに子どもがいなかったから、自分が来たんだよね」などと言ったかと思うと、「母ちゃんのおっぱいを飲んで大きくなったんだよね」などと言ったりした。思うようにならないことがあると、「自分は〇〇(児童福祉施設)に帰る、そこのお姉さん(保育士さん)が自分を生んでくれた本当のお母さんだから」と言ったりした。

5歳の誕生日のあとから、「こんなところに来たくなかった。〇〇(児童養護施設)に帰りたい」と言って暴れることがあり、保育園でも「自分は××幼稚園(施設にいたときに通園していた園)に帰るから、みんな、さよなら」と友だちに言って回ったりした。Aがいた児童養護施設の園長先生に相談したら、一度遊びがてら養護施設に連れてくるようにと言われ、親子3人で出かけた。半日施設の友達や保育士さんと遊び、帰り際に園長先生がAを部屋に呼び「Aのお家は里親さんのところだよ」と話してくれて、Aも了解してそのまま3人で帰った。

②小学校入学前の健診で、発達障害の可能性もあると言われた。

小学校入学後、トラブルを起こすようになった。授業中に友だちのノートにぐしゃぐしゃにいたずら書きをする、給食を食べない、休み時間に友だちとトイレに立てこもるなど。「困った子どもです」と先生から言われた。思うようにならないと、暴れる。「誰も自分を見てくれない」と言う。児相の心理士と月1回面談しているが、児相から「Aは、性格的に沢山関わっても、可愛がっても、なかなか満たされないところがある。それは本人のこれまでの養育の過程の中からで、家庭だけでは対応が難しいので、児相も長期的にかかわっていきます」と助言と励ましをもらった。

1年の2学期はあまり問題がなかったが、「友人に蹴られた」「防犯ベルをこわされた」「頭がおかしいといわれた」などと、本人は訴えたりした。

3学期になって、困った行動が増え、担任が対応できず、スクールカウンセラーや児相と話し合いを持った。

③健康と発育、性格：

わりと一低身長で、とても一感情の起伏が激しい、よく嘘をつく、よく約束を破る。わりと一わがまま、落ち着きがない、甘えたがる、素直でない、小心。寂しくてたまらないのか、思うようにならないと、いじけてしまったり、大暴れしてしまうことがよくある。

④学習状況：

成績は中、得意なのは図工、体育、苦手は算数。勉強はやや嫌いだが、学校へ行くのはふつうに好き。宿題は言われなくてもする。友達関係は普通。忘れ物が多いので、これから先どうなるか心配している。

⑤親子関係：

時々気持ちが通じないと思うことがある。

⑥相談相手は、自分の親、友だち、里親会の仲間、児相の職員。子どものカウンセリングに月1回通っている。

⑦委託を返上する気持ちは、途中1、2度あったが、今はない。次の里子についてはタイミン
グがあえば受け入れたいと考えている。(以上)

5. 知的障害児と知って受託したが予想外に難しい展開 —自立が難しければ養子にすることも考える里母

1) 概要：

Aは知的障害児で、特別支援学級在籍。母親が人格障害で育児困難となり、施設に預けられた子。

Aは初めて長期受託した子で6年目になる。その間に5人を短期受託した。

それ以前には、高3の男子を里子にしたが、外泊などして素行が悪く、児相も「限界ですね」と言い、養育を返上したが、今は父のもとに帰ったので正解だった。限界と感じた時は、勇気を出して児相に相談することが大事だと思う、と里母。

2) 里親の家族構成：

里母50代、里父50代で宗教関係者、祖母、嫁、孫4人、里子2人(15歳男子A2、11歳女子A)実子5人(20代後半、20代前半2人、10代2人)の15人家族、

3) 受け入れの動機：里母の両親がAの実母を小4.5年から高1まで養育したが、その子(Aの実母)が家出し、高1で援助交際して妊娠。出産した子がAで、里母の両親が施設で育てているAを不憫に思い、家庭を知らずに育てては可哀そうと、里母に育ててくれないかと言われた。

5歳で引き受ける際に、児相が知能テストをして知的障害児と判定した。

知的障害児を引き受けたのは、障害はあっても愛情をもって育てれば何とかなると思い、宗教的な考えがベースにあり、これもご縁かと思って養育した。何があっても乗り越えられるだろうと思って引き受けたが、予想外に大変だった。

4) 事例：A(11歳)知的障害をもった女兒

①当初の問題：

小学校入学前に委託されたが、当初は全くしゃべらず、後に施設職員や施設の子どもたちが、Aのしゃべるのを聞いて驚いていた。暗い顔で、無表情。どことなくさみしそうだった。泣き出したら、いつまでも泣きやまなかった。言語発達が十分でなかったので、意志疎通が大変だった。生活習慣の自立が遅れ、小学校に入学したが大変だった。テレビのコードをハサミで切る、アイロンのつけっぱなし、クロスにマジックで落書きなど。服を季節に合わせて調節することや、食事マナーなど、何度言っても出来ない。初めは若い男性にべたべたしていた。

②学校：初めは通級で、4年から特別支援学級に移籍。しかし支援学級が徒歩30分の学校にしかないので、送り迎えが大変だった。知り合いのおばあさんが、学校への迎えをしてくれることになったが、「おばあさんが里母の悪口をいっている」と嘘をついたため、その人が激怒して迎えは中止となる。音楽と体育が得意。

③健康と生育：わりと一低身長。当初は喘息があり、アレルギーもあった。

④性格：わりと一すぐ泣く、嘘をつく、約束を破る。学校では、素直で、仕事も一生懸命、小さい子や困っている人にやさしい。しかし5、6年生から反抗的になり、よくふくれたり、大声でケンカしたり、暴れたりする。嘘も言う。

⑤学習状況：成績は下、音楽、体育が得意。学校はとても好きだが、勉強はやや嫌い。宿題は

自分からする。友達関係はとてもいい。

⑥親子関係：わりと気があっている。しつけは「遠慮しないで叱る」と、「やや抑える」時の両方。自立が難しければ、養子にして一生サポートしていきたい。娘がいないので、家事など頼りになる存在である。実親に会わせてあげると言っても、自分を捨てたのだから会いたくないと言う。一生お嫁に行かないで、この家に住みたいと言っている。

⑦課題と心配：生活習慣の自立が今もできていない。温度に合わせた衣服の調節、食事マナーなどができないで、毎日同じことの繰り返し。心配していることは、里父は嘘をつくので、里母は知的障害があるので、Aの将来を心配している。

⑧相談相手：宗教関係者である里母の実母と、次男(養護施設のケアワーカー)によく相談する。カウンセリングを受けたことはない。

⑨委託の返上：知的障害児(軽度)の対応の難しさや理解の不足から、養育するのが困難だと思って、委託の返上を考えた時期もあった。きょうだいとのケンカやトラブル。初めから「嘘をついてはいけない」と言ってきたのに嘘をつくなど、種々あった。でも一緒に生活していく中で、愛情が勝って、委託の返上は考えられなくなった。また研修機会があつて勉強していくうちに、子どもを理解できるようにもなってきた。Aも成長し、宿泊旅行のとき先生のお手伝いもするし、学校で皆のお手本になっている部分もあり、よくできた子だといわれるようになった。(以上)

6. 学校や地域から「どうしてこんな行動をするの?」と質問攻め

—性的虐待を受けた子を預かって *被虐待児

1)概要：

7歳女子A(6歳から委託中)：実親より緊急一時保護され、その後に預けられる。

*里母の感じる虐待の影：愛着がうまく整わない(ママ)。体に触られるのを嫌がる、男性だけに近づく、風呂を嫌がる。

2)家族構成：

里母は50代、福祉施設に勤務。10年間保育士だった。専門里親。里父は50代で福祉関係者。養子1人、4人家族。

3)＜事例1＞A：(女児7歳)

①受け入れの動機：

専門里親であり、児相から依頼された。実子(養子)は10歳女子で4歳違いなので、年齢差を心配した。性的虐待もあったので、実子(養子)への影響もあった。子どもの部屋で、体を触ってくる。入浴の時に、実子の胸や陰部を触ってくるなど。

②成長と発育：とても一食べ過ぎ、わりと一低身長、運動神経が鈍い、怪我が多い

③性格：とても一落ち着きがない、感情が激しい わりと一わがまま、運動神経が鈍い、誰に

でも平気で近づいたり、物をねだったり、勝気で負けず嫌いなので、トラブルが多い

④学習状況：成績は中の下、苦手は算数。勉強はやや嫌い、学校はとても好き

毎日のように勉強をみてやる。宿題は言われてする。友達関係はあまりよくない。

知的な遅れがあるので、1つのものをしあげるのに時間がかかる。

⑤親子関係：いつもどこかちぐはぐ。楽しい会話の時に、怒ってしまう。家族の悪口を言うなど。

⑥大変だった事：学校その他から「どうしてこんな行動をするの？」と質問せめにあう。

例えば、なぜ男の先生ばかり追いかけるのか。突然部屋を出て行って、スプーンを陰部に押し当てるなど。虐待が実母より受けた虐待(火傷の跡)だけでなく、継父より性行為などがあつたため、実子への影響を懸念した。扱いが大変だったので、他の人(学童、児童館、レスパイト)へ預けるのが難しかった。楽だったのは、排せつ、入浴、食事などが自立していたこと。

<事例2>中2女子(1歳から養育し、6歳で養子にした)

小4で発達障害がわかる。ADHDとLDを併存。地図、図形の知覚が苦手。

①当初は全く里母のそばを離れなかった。真実告知は機会をとらえて何回もした。

小4で、「ほんとお母さんに会いたい」と言い出した。いい母親のイメージを持っていたのだろうが、捨てられたと思うようになった。10歳で、「お母さんの子にして」と言う。

里親姓を初めから通称として使用している。(以上)

33(収録否)学級崩壊の核になった子

—もう少し学校が弾力的な対応をしてくれば

2)心に闇のある子

7. 今日失敗したことが明日につながらない子

—叱られると心を閉じてしまって何を言ってもはねつける子との日々

1)概要：

12歳女子A(中1)：(6歳から6年間)

親が育てられなくて、乳児院から施設で育った子。初めての里子。

2)里親の家族構成：

里母は50代で専業主婦、里父は50代で自営。A12歳と実子は現在20代前半2人、10代2人の7人家族。

3)里親登録の動機：里母は北海道で育ち、父が教員だった。家のそばに養護施設があり、クラスに2.3人施設の子がいた。消しゴム一つを無くしても探し回る。子ども心に、家でも学校でも緊張していなければならない子がいることを知った。6年生で父が転勤。知的に遅れのあつた子は養護施設に移った。「守る人にならなければ」と思った。看護師資格を取ったが、働くこ

となく結婚、5人の子どもに恵まれる。下の子が1年生になった時、何かしたいと思った。〇〇区のショートステイが始まった頃で、支援センターが体験発表などを企画し、参加して、養育家庭の誘いを受けた。

その頃下から2番目の実子が、妹をほしいと言った。里父の仕事関係でつきあいがあったいとこの夫が、支援センターに勤めていて、その縁で引き受けることにした。3月に話があり、9月から3月まで6カ月交流した。12月が誕生日だったので、交流の時にAにマフラーを編んで持っていったが、渡すのを断られた。

4)事例：A(12歳女子)

①Aは当初話しをしない子だった。1カ月位して話すようになったが、学校であったことは話さなかった。友人とはうまくやっていたようだ。

②難しさはむしろ思春期になってから始まった。

初めは他人の持ち物を何でもほしがった。自分が持っていて、新しいものをほしがる。人の物をもってきてしまう、家のお金を持ち出して買い物に行ってしまう、その繰り返しだった。とにかく誰かと同じものがほしい子で、買い物に行っても、自分では自分の物を選べなかった。家では姉(4番目の)のものを黙って持ってきてしまう。多少は隠すが、すぐばれてしまうような隠し方をする。万引きはしなかったが、母親の財布からお金を持ち出して買ってしまう。

③5、6年生のころクラスに6人グループがあった。グループのメンバーは、母親が子どもに1万円札を渡してやるような家庭環境だった。担任やその母親とも話し合ったが、うまくいかなかった。グループの中には、夕食も時間を決めておらず、勝手にコンビニで買って済ませてしまう子もいたため、小学生として、そのようなお金の使い方はよくないことを、担任から話してもらい、日常の遊びの中では、多額なお金をもたせないようお願いした。日頃から子ども持ち物に注意して、小遣い以上の買い物をしていないか、また誰とどこで遊んでいるかなどを親が把握するように話し合ったのだが。

Aに買い物を禁じたら、放課後学校で遊んでくるようになった。その頃がいちばん大変な時期で、委託解除をしようかと思った。見相の心理職とも何度も話し合った。

④私学へ入学したが

実子たち(兄姉)は公立中学だったが、私立を受験させることにした。公文、スイミング、家庭教師などをつけた。親に勉強を見てもらうことが嬉しいようだった。運動が得意だったので、競泳が有名な私学に入れた。早々に水泳部の3年生のケータイをとってしまった。ケータイは、ずっとほしがっていたが与えずに、代わりに与えたケータイのおもちゃを大事にしていた。それが発覚して無期限で部活動は禁止になった。

⑤1年生の5月に退学して、地元にもどる。スイミングの部がある学校に入れたかったが、数が少なく、実子と同じ学校で、学年主任のクラスに入れてもらうことができた。

転校の件はそれほどこたえていないようで、ほしいものの抑制は少しはできるようになったが、転校で懲りたわけではなかった。

⑥発育と健康：わりと偏食だった位

⑦性格：とても一素直でない。わりと一わがままで、落ち着きがなく、言葉が荒く、感情の起

伏が激しい。人に心を閉ざす。

- ・ 実に明るく活発だが、問題を起こして問い詰めると黙ってしまう。選択を迫られた時に自分で決められず、逃げてしまう。
- ・ 昨日、今日、明日の時間のつながりがなく、絶えず今を生きている感じ。いま自分がひどい言葉を浴びせた人に、「---して」と頼みごとをしたりなど、ゲームをリセットするような感じで関わってくる。
- ・ 自分の言ったことを忘れる。今日失敗したことが、明日につながらない。叱られても、自分のしたことを悪いとは言いが、何が悪かったのか、これからどうすればいいのかを聞いても答えられない。モデルがあればその通りにするが、自分はこれがよい、これがしたいという主張があまりない。
- ・ 何時に起きて、何時に食事をして、何時に出ればいいのかなどの判断ができない。施設で一斉に集団行動をしていたせいだろう。一斉に着替え、一斉におやつ。同い年の子がいて、同じように行動するから。
- ・ 何を与えてもすぐ飽きてしまう。忘れ物が多い、失敗を繰り返す。時間の観念がない。

⑧学習状況：成績は中の下、体育が得意。学校へ行くのはとても好きだが、勉強はそれほど好きでない。宿題は大体はする。友達関係もわりといい。

⑨親子関係：時々気持ちに通じない。叱られると心を閉じてしまって、何を言ってもはねつけられ、むなしくなる。叱る時は、遠慮なく叱っている。

⑩相談相手：実子の中の上の子たちが一番。里子は児相で心理カウンセリングを受け、里母も接し方のアドバイスを受けた。

⑪不安なこと：物をもって来てしまうので将来が不安。将来は、水泳のインストラクターにでもなれるといいが。本人は、大学には行かれると思っているようだ。

⑫委託の返上：1.2度思った。何時間も話して、もうしないだろうと思った数日後に、またお金を持ち出した時。彼女と同じメンバーが皆で嘘をつき、何が真実か、彼女たちの心を理解しようとしても空回りばかりで、どうにもむなしくなってしまった時。

5)その他、実子への影響について：

Aが小学校高学年の頃、いちばん大変だった時期は、問題行動を起こすAの姿や里母がAと言い争う姿を見聞きすることが、実子たちのストレスになっていたようだった。外出先で、里母がAを叱ることを嫌がっていた。自分の持ち物を無断でもっていかれることは、ショックだったようだが、それで里子と暮らすのがいやだとは言わなかった。Aの生い立ちから来る精神的な不安定さを理解していたようで、現在は里子の成長ぶりを喜び、それぞれが関わってくれる。実子の成長にもプラスになったのではと思う。(以上)

8. 「僕なんか死んでしまえばいいんだ」という子と暮らす

—子育てについて話し合い、助言してもらえる場がほしい

1)概要：

A：5歳男児(2歳7カ月から、現在迄3年6カ月養育)、養子縁組済み

乳児院から里家に。実の両親の間にトラブルがあり、2人とも子どもを手離すことを望んで、生後2カ月から乳児院に入れたので、初めから養子縁組をした。養子縁組を希望していたのに、「どうして2歳6カ月まで乳児院に置かずに、すぐ委託してくれなかったのか。愛着障害問題が発生する以前に」と里母。

2)家族構成：

里母40代で主婦、里父50代で勤務者。Aを含め3人家族で、実子なし

3)里親登録の動機：

里母の子ども時代、学校に施設からくる部活の先輩がいて、こうした養護施設の存在は知っていた。里母が通っていた幼稚園の隣に〇〇ホームがあり、現存している。

最初の面会から愛おしく、夫の甥に似ていた。里母のきょうだいからは反対された。子どもが3人いる姉には「どんなDNAかわからない、あなたには子どもは育てられない、大人になって、何をするかわからない」と。なぜ児相が預かってすぐ委託してくれなかったのか、2歳半まで乳児院に置いたのか、腑に落ちない。そうすれば、もう少し育てやすかっただろう。5月から9月迄、交流した。

4)事例：A：5歳男児

①当初：里父には慣れたが、里母を拒否した。朝起きると泣き出して、1、2時間も泣き続けた。原因は分からない。車に乗っても泣いた。その傾向は今でも続いているが、それほどではなくなった。1、2年はアンパンマンのビデオやウルトラマンのテレビ番組を見ていた。4歳の終わりごろからはゲームもやり始めた。やり始めると3時間位集中するので、止めると凄く泣いたり、叩いたりしてきた。

友人から愛情表現はハグだと聞かされて、そうしようとしたが拒否される。数か月で里母は体調を崩したので、保育園に週2.3回預かり保育をしてもらったが、園も嫌がる。

②現在の発育：わりと一偏食で小食、風邪をひくと鼻づまり

③性格：とても一甘えたがる、素直でない、言葉が乱暴。わりと一わがまま、落ち着きがない、感情の起伏が激しい、すぐ暴力に出る。優しいところもある。繊細で神経質。

④親子関係：時々、気持ちが通じない。思ったことは、遠慮せずに叱る。

困っていることは、反抗期で、絶対に自分の意見を曲げない。違っていても正しいことにする。交換条件をもちだすなど。

⑤今の大変さ：気に入らないことや、叱ると物を投げたり、叩いてきたりする。「僕なんか死んでしまえばいいんだ」と言う。どこで覚えたのか、テレビを見ていて覚えるのか。言葉遣いが悪く、里親に命令する。カウンセリングは受けたことはない。児相の訪問の時に相談したが。

⑥これからのこと：

将来のことで、1. 社会性を身につけてほしい。2. 自分が生まれてきた時のことや施設で育った事など、真実告知をした時どうなるか、心配もしている。しかしあまり深く考えず、成